

# これが現場社員の声だ！

施策の前倒し、担う社員にモチベーションを与えるべき！

会社に対して交渉団は、組合員の声、社員の声をもとに具体的に訴え、会社に認識を求め、認めさせている部分が多いと感じました。  
特にローン返済の声が多い中、会社に強く訴え、会社も個々の事由には触れないが、「そのような社員がいることは承知している」と述べていること。承知しているのなら、そのような社員の事情も総合的に勘案してもらいたいと思いました。

「変革 2027」、施策の前倒し、誰が担うのか。社員が担うのなら、会社はモチベーションを与える義務があると思う。  
ただで社員の成長は買えないということを会社に考えてもらいたいし、経営体力を人への投資という形で見せてほしい。

今回も夏の交渉と同じく、言い方や表現は違う部分があるが、経営側の説明は変わらず「会社も大変」の主張ばかりだと感じました。  
「出せる体力はある」「社員の生活費や各ローンで手当を使用している現実を認識している」のであれば、経営側は自分たちが話したことに責任を持ち、社員への投資も含めて用意するべきです。

交渉団は、年末手当に関する社員の声を経営側にしっかり伝えていて心強いです。  
「手当がなければ生活に困る」「この先が不安である」という気持ち、「社員の努力があるからこそ今の会社がある」  
「人材育成の部分においても社員を大切にしていかなければならない」と再度経営側に訴えてほしいと思います。

